

## YMCA サービス・ユース事業通信 AYC 報告号

(通巻 3 号)  
2022.03.15 発行

【事業主題】 パートナースhipを見つめなおそう。これからも共に歩むために  
～Think partnership first. For us to go together～

2021-2022 年度 西日本区 YMCA サービス・ユース事業主任  
河川 裕亮 (彦根シャトークラブ)

### アジア太平洋地域ユースコンボケーション(AYC)が開催されました！



AYC2021 がリモートにて盛況のうちに開催されました。

【Youtube にアップされています！】 → <https://www.youtube.com/watch?v=mRe155g8e5k>

### アジア太平洋地域ユースコンボケーション(AYC2021)

開催日時： 2021年8月7日 15:00～18:00 (日本時間)  
2021年8月8日 15:00～18:00 (日本時間)

開催様式： ZOOM によるリモート会議

参加人数総数： 120名あまり

西日本区からの参加者：ユース4名・ワイズ関係者7名 合計11名

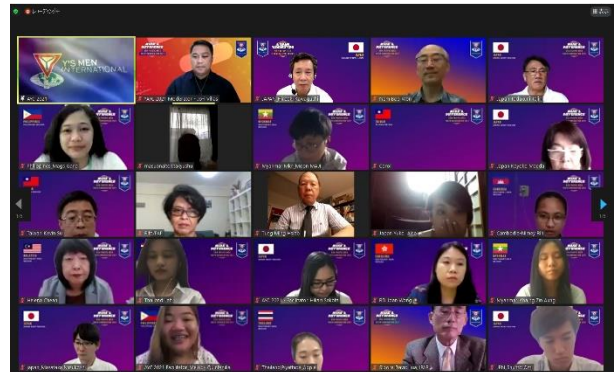
東日本区からの参加者：ユース7名・ワイズ関係者4名 合計11名

プログラム： ◆ 1日目 15:00～18:00 (日本時間)

【オープニング】



【全大会の様子】



プログラム1日目はオープニングセレモニー、全体会議の後、4つの分科会に分かれ、それぞれの分科会において講演、グループディスカッションが行われました。その後全大会に戻り、それぞれの分科会での意見交換の発表が行われました。



1日目閉会後は有志の皆さんによる親睦会が開催されました。歌や踊りなど様々なアトラクションが用意され、とてもリモートとは思えない盛り上がりのうちにあっという間にお開きとなりました。

【1日目懇親会】



プログラム： ◆ 2日目 15:00～18:00 (日本時間)

プログラム2日目はオープニングセレモニー、全体会議の後、それぞれの国ごとに分科会に分かれ、グループディスカッションが行われました。東西日本区合同の分科会ではYMCAリーダーからは所属するYMCAでの活動について、またゲストの方々からは自発的な地域奉仕活動の報告を頂きました。その後全大会に戻り、それぞれの分科会の発表が行われましたが、東西日本区からはゲストでご参加下さいました「Ryo Eiki」さんからとても立派な発表を頂きました。

【全体会の様子】



【東西日本区分科会】



【大野アジア太平洋地域会長のご挨拶】



【Ryo Eiki さんの分科会発表】



【西日本区ユース代表として参加頂いた佐古田さん】



## 参加頂いたユースの皆さんから

### ◆東京むかでワイズメンズクラブ 福島和州太郎

AYCとしては初めてのZoomでの開催となりましたが、大変な参加人数と盛り上がりで、素晴らしい事だなと思いました。また、IT関係の手配も滞りなく、Moderatorや発表者の音声の問題等はほとんど感じられず、非常にスムーズに進行した大会だったと思います。特にModeratorはプロ意識が大変高い方で、会の盛り上げに一役買っていたと思います。

二日間の大会の中で最も印象的だったのは、初日のKey Note Speakerから話されたテーマで、世界のガン(GREED)とその二つの症状についてのお話でした。このテーマは既に国際社会も認識(米国ビジネスラウンドテーブルでは2019年、経団連は2020年に全てのステークホルダーへのコミットメントを表明)し始めています。一方で、私たち一市民のレベルとしては、これを如何にして進行を抑え、治療していくのか、その方法論と具体策に落とし込んでいくことが大変困難なものに感じました。続編があるのであれば、是非お聞きしたいなと思った次第です。

### ◆オール熊本YMCAリーダー会 会長 尾見 駿斗

#### ① 参加に至った経緯

国際交流の場を通し、「YMCAのキャンプはコロナ禍においても充実できるものであり、子どもたちに変化を作るきっかけになる貴重な機会である」、ことを発信したかったから。

#### ② 印象に残ったプログラムなど

YMI 総長の「ボランティアは人生を豊かにする」という内容を含めたプレゼンテーション

#### ③ 全体を通しての感想

二日間プレゼンや討論を通して直感的に私はユースである責任感が大きくなりました。一番印象に残っているプレゼンはY's Men International(以降YMI) 総長の方のプレゼンで「ボランティアは人生に豊かにする」というパートでした。「自分自身がどれだけボランティア(手助け等)を必要としてようと、ボランティアを行うことにより自己肯定感の向上や責任感の芽生え、リーダーシップの定着、自分のすごさに気づかされることに繋がる」。これは今の私の説明をされているのかと思うほど腑に落ちました。リーダー会を立ち上げ、ずっと支えてくださっているスタッフへの感謝がより大きくなりました。これからもYMCA運動を進めていくべく、私はリーダー会の質・量ともに向上させていこうと再び感化されました。

また今回たまたま昨年全国YMCAリーダー研修会でお会いしたとちぎYMCAのまなびんリーダーと同じブレイクアウトルームになりました。その際コロナ禍においてもキャンプはメンバーもリーダーも人生を豊かにすることを確認しました。YMCAのキャンプではリフレッシュはもちろん、個々に変化を作るきっかけになると感じています。これからは人生が豊かになるキャンパーを増やすべく、より充実できるキャンプを作り上げていきたいと思いました。

#### ④ 参加してみて新しく気付いたこと

自分が発言することによって他人の意見の聞き方も変わってきて、一人ひとりの発言が増えることによってコンボケーションの質も向上していくと気づきました。これからはより発言の機会を増やしていき、より質の高いイベントを作り上げていこうと気づかされました。

#### ⑤ スタッフとして参加された方はその辺りの苦労話など…

YMCAのリーダーとして参加させていただきました。

#### ◆とちぎ YMCA ユースボランティアリーダー 古谷真菜

初めは、とちぎ YMCA のリーダー全体に向けた案内として、この AYC の企画を知りました。アジアのユースの方とコミュニケーションが取れることがとても魅力的だったのですが、英語を話すことに自信が無く参加することを諦めていました。ですが、後日、ワイズの大久保さんが個人的に連絡を下さり、英語に自信が無くても通訳が入るから大丈夫だよと背中を押してくださり参加を決めました。

特に印象に残ったのは2日目の国ごとのグループディスカッションです。それまでずっと英語がメインだったのでずっと緊張していたのですが、国ごとのディスカッションでは、通訳を介さずに聞いたり話したりすることができたので、同じ言語でコミュニケーションが取れることがこんなにも安心するのだということに気付きました。また、年齢も住んでいる地域もバックグラウンドも違う方々とお話する機会もあまりないので、様々な見方や考え方がとても新鮮でした。まさにユースのアイデアとワイズの経験が合わさる機会だったと思います。きっと、初めから日本だけでのディスカッションではなく、他国の人のお話や交流があったからこそより多様な意見が生まれたと思いました。

今まで、様々な国の方と一度に交流するという機会が無かったため、ドキドキしていましたが、オンライン上でも皆さんが笑顔だったり、リアクションがあったり、初めから最後までとても雰囲気の良い中だったので、楽しむことができました。2日目のお話の中の、自分の国、自分のことだけを考えるだけでは世界は成り立たない。長くは続かない。みんなが Global Citizen の意識を。という言葉がとても印象強く、本当に大切なことだと思います。昨年参加した、全国 YMCA リーダー研修会でも、とちぎ以外の地域のリーダーとの交流を経て、YMCA の良さやもっとこうすると良くなる課題に気付くことができたので、AYC でのアジアの皆さんとの交流から、日本が、世界が、よりよくなるといいなと思います。

初めは、言語の違いから参加を諦めていましたが、参加してみて「参加して良かった」と心から思いました。参加することに対する不安はもちろんありましたが、参加しなければ出会うことのなかった人との交流や、様々な話を聞いて自分の中で考えるきっかけが生まれました。そして、自分が今回参加したことから、AYC の魅力を知ることができたので、次回はもっと多くのユースが参加して素敵な経験ができるように、多くの方に情報発信していきたいと思いました。英語が苦手だから、話せないからと逃げてしまうのではなく、チャレンジしてみることの大切さに今回改めて気づくことができました。

AYC2021 に参加できたことをとても誇りに思います。参加させて頂き、ありがとうございました。

#### ◆ゲスト参加 泉明寺 さくや

この度 AYC2021 年のズーム会議へは母の勧めもあって参加しました。私は大学の英米文学科に通っており、小学生の時から留学を通して様々な人々と国際交流を図る機会が多かったです。しかしそのほとんどがアメリカや欧州だったため、アジア圏の人々との交流はあまりなく、今回ここに参加させていただいて様々な国の問題(クラブの問題も含めて)が学べたためとても勉強になりました。

お見守り頂いたワイズの皆さんから

#### ◆アジア太平洋地域書記 前田香代子

私は職制上の参加であった為、当初からの打ち合わせを含め、相当数のミーティングに参加しました。会を重ねるごとに実行委員会の人数も増え、日々の連絡も messenger というツールを通して盛んに交わされまし

た。ZOOMでの開催については全く初めてでしたが、各担当者が自分の責務を果たしていたと思います。特にテクニカルの担当者の技術は素晴らしく心に残りました。様々方々にスピーチをいただき分科会でも討論しましたが、もう少し時間に余裕が欲しかったと思いました。全体を通して素晴らしいAYCでしたので、もっと多くのユースにこの機会が与えられれば良かったのにと感じています。

#### ◆甲府21ワイズメンズクラブ 水越 正高

佐藤重良ワイズのお誘いを受けてアジア太平洋地域の35歳未満の若者が集まる、有意義なセッションに参加してきました。そこでは様々なプログラムを通して、多様な問題についてディスカッションが繰り広げられ、非常に情熱的でポジティブなイベントの参加者の一員となれました。2年に一度開催される本イベントは、例年は主催国にて行われるグローバルイベントですが、今回はパンデミック渦中の開催という事もあり、異例のオンライン開催となりました。私は私用も重なり1日だけの参加となりましたが、貴重な話をたくさん聞くことが出来ましたので皆さんにシェアしたいと思います。

DAY 1:のメインスピーカーは、Alexander Lacson (弁護士・作家)

Make a Difference: Love & Heal the World をテーマにお話しいただきました。

Lacsonさんは、アメリカで発生したアマゾン宅配トラックのホームレス強盗事件を例に、アメリカだけでなく世界中で貧困や経済格差が拡大している事を問題提起、この状況を「社会的病気」と表現していました。この病気が世界中を蝕んでいるのは、人々の強欲が原因だとLacsonは強く主張していました。世界中が抱える格差や差別、気候変動などの問題にどのように打ち勝てばよいのか？ その答えこそ「愛」「思いやりの心」「笑顔」「言葉」だと表現していました。この「愛」についてLacsonさんが「犠牲を払う覚悟があるか？」とメッセージを投げかけている姿は、私の心に強く響きました。格差を解消するための手段として、富を分かち合う事は常に犠牲を伴います。その痛みを許容する勇気を持つ重要性に多くの参加者が頷いていました。

メインスピーカーの講演の後、少人数の分科会に分かれ様々なテーマの講演とディスカッションが実施されました。私は、Greatness Within (リーダーシップ)のテーマについて参加しました。特に印象的だったのは、成長する為のステップにおいて何が重要なのかという話題でした。スピーカーのDino Badillaさんは、若者の多くが「次のステップに行く為に必要な物は何か？」という質問を投げかけるが、「大事なものは、まず自分がどうなりたいかを考える事だ」「それこそが本当に欲しいものだよ」と優しく語りかけてくださいました。才能を引き出す為には、それぞれの地域においてリーダーシップを巻き起こす事が大事であり、その為には周りの人の良い影響が不可欠であると力強く講演されておりました。その後は各国のユースが質問や意見をディスカッションし非常に情熱的で活発な交流が繰り広げられました。水越は英語がダメダメなので全然参加できませんでした。悪しからず・・・

最後には分科会からの代表者が各ブレイクアウトルームでの議論を発表し、1日目は幕を閉じました。発表者の1人である、ミャンマーのユースメンバーからは「軍事クーデターやコロナによって多くの人が犠牲になっている事態について非常に悲しみを感している」と話が上がりました。私たちが普段、テレビやネット越しのメディアで目の当たりにしている悲しいニュースを、自分が如何に別世界の事として消化してしまっているかを目の当たりにしました。勿論、自分の力だけで解決できる問題でもありません。しかし、世界や身の回りで起こっている問題について、自分の中で考える機会を持つ事の重要性をミャンマーのユース発表を通して気づかされました。

全日程の参加ではありませんでしたが、非常に有意義で熱いセッションに参加させていただいた事をご報告申し上げます。

## AYC を終えて

### ◆西日本区 Y サユース事業主任 河川裕亮

コロナパンデミック渦中において、開催されるされないがぎりぎりまで決定されない中、ZOOM での AYC 開催が決定されたのは 2021 年 6 月頃でした。しかも開催は 8 月頃の予定との事。次年度の主任本番に向けて準備真っ只中の事でしたので本当に慌てました。まず参加者を募らなければならない、でもどうやって…？からスタートし、悩んでいるところに西日本区ユース代表として佐古田ひかりさんが任命されたとの話も飛び込んできまして、経緯なども全く存じ上げなかったのですます混乱してしまいましたが、とにかく案ずるより産むがやすし。思いつくまま出来るところから PR を始めました。

今期に入ってすぐ、AYC 準備委員会からのお声がけを頂き、大野地域会長、前田地域書記、そして佐古田ひかりさんと共に ZOOM でのミーティングに毎回参加させて頂くようになりました。実行委員会は毎週のように開催されました。もちろん英語で。英語に全く通じていない私を救って下さったのは前田地域書記の素晴らしい通訳があったからこそです。疑問点なども全て前田書記が通訳して問い合わせさせて頂く事が出来て本当に救われました。この場をお借りして恐縮ですが、心からお礼を申し上げます。また、このミーティングでは西日本区ユース代表の佐古田ひかりさんも一緒にご参加頂きましたが、英語が堪能な彼女は臆することなく実行委員会メンバーの皆さんと本当に前向きで建設的な発言、センスのある提案をもって協議に参加されていました。本当に安心して見守ることが出来ました。

これだけ皆さんが一生懸命に段取りされている AYC について、一日でも早く、まず西日本区内で PR するためのツールが欲しい。そう願っていた私はチラシの作成を待ち望んでいたのですが、いくらミーティングを重ねても一向に作成される気配がなく、毎回やきもきしておりました。開催 1 か月前になってやっとそれらしきものが出来上がってきたのですが、配布方法は Facebook が中心との事。ペーパーでのチラシ配布を想定していた私の目の前は真っ暗になりました。しかも登録申し込みは従来の様に区が取りまとめるのではなく、個人が個人的に Web 上で自発的に申し込むだけという事になり、益々慌てるばかりだったことが強烈な印象として残っています。

正直な所、こんな段取りで果たしてうまく行くの…？と心の中で思っていたのですが、いざふたを開けると若い人達の用いる SNS 上ではものすごい伝播力があって、参加者数も日に日に増えていき、またアジア太平洋地域各地のワイズメンズクラブからもたくさんの参加申し込みを頂き、最終的には 120 名余りの登録を頂いて、開催にこぎつけることが出来ました。皆様のご協力に心から感謝を申し上げます。

ただ…、東西日本区からのユース達の参加が他国に比べて少なかったように感じました。言語、宗教、普段使っている SNS の違いなど様々な要因があるとは思いますが、やはり普段からの私たちワイズメンのユースに対する活動がまだまだ足りていないんじゃないかと強く考えさせられた機会でもありました。今後の Y サ事業の大きな課題として取り組んでいきたいと考えております。

また、世の中はチラシやメールの時代から SNS の時代へと移り変わっている事も明確となりました。開催当日の ZOOM 操作も円滑に行われ、全く難なくノートラブルで 2 日間の開催が出来たのですが、このようなツールを自由自在に操ることが出来る若い人達の力が私たちワイズメンズには絶対的に不足している事も併せて痛感しました。ユースを育てる、関わる、私たちの力になってもらう、仲間になってもらう…等、今よりももっとユース達を身近な存在と置けるように、私たちも考え直さなければいけないのだと強く感じました。

以上、ご報告を申し上げます。今後とも Y サ・ユース事業へのご協力を宜しくお願い申し上げます。